

学校だより



学校だより 7月号
令和2年 7月 1日
発行者 外日角小学校
TEL 283-0040

「負の強化より、正の強化で」

校長 稲垣 一郎

梅雨の季節を迎え、学校畑のアジサイも色づいています。自然の植物がたくましく伸びゆく様子は、私たちに勇気や希望を与えてくれます。校長室の前に、毎週、植物クイズを出しています。たくさん子ども達が、興味を持ち植物の名前を調べたり、相談したりしながら、校長室のドアを元気に開けて答えを伝えに来てくれます。とてもうれしい限りです。

また、1年生はアサガオ、2年生はミニトマトやピーマンに水やりをしています。生長の様子もしっかりと観察し、その絵が教室に掲示してあります。3年生はホウセンカ・ひまわり・ピーマン・オクラ、4年生はヘチマ、5年生はフジバカマ、6年生はジャガイモを育てています。どの学年の子ども達にも共通していることは、世話をしているときの表情がとても優しく、目がキラキラと輝いていることです。進んで世話をすることで、芽が出て茎が伸び、植物が元気に育っていることが分かるからだと思います。

毎朝、登校時に交差点で子ども達を迎えています。進んであいさつをする児童が増えてきています。元気な声の子、名前をつけてくれる子、笑顔いっぱいの子、立ち止まってくれる子、手を振ってくれる子など様々です。また、地域の方々も、車からでもあいさつをしてくださいます。そんな子ども達に負けないように、教職員も子ども達や地域の方々に声をかけるよう心がけています。

話は変わりますが、人は行動によって望ましい結果が得られると、それを繰り返し行うようになります。これが、「正の強化」だそうです。一方で、人は行動によって嫌なことが取り除かれると、それも繰り返し行うようになるそうです。これは、「負の強化」です。例えば、家に帰って早めに宿題に取り組んでいるときに、親から「進んで勉強してえらいね」と声をかけられると、次の日も同じように取り組もうとします。これが、「正の強化」です。宿題を忘れていた時に親から叱られた経験がある場合には、叱られないために宿題に取り組もうとします。これは、「負の強化」です。もちろん、「正の強化」の方が効果的だそうです。

人は、よい行動よりも悪い行動に目が行きがちです。しかし、叱ってばかりいては、子どもが自信を無くし、叱る人の前だけではおとなしくしようと人の目を見て行動するようになり、子どもの行動や生活の本質的な改善にはつながらないと思います。適切で、素敵な行動がとれたときに、タイミングを逃さずにほめたり、共感したり、うれしい気持ちを伝えたりと声をかけていきたいと思います。当たり前でできているときにも、「いつもしっかり頑張っているね。頼もしいな。」「忘れずにきちんと取り組んでいるね。うれしいな。」と声をかけて認めることもとても大切です。

学校でも、子ども達のよさや頑張りをたくさん見つけて、叱る時は真剣に、ほめる時は思い切りほめて、子ども達の心を伸ばす教育の充実に努めてまいります。

今後も、コロナウイルス対策をはじめ、熱中症対策にも注意を払いながら対応していきたいと思っています。ご理解、ご協力をお願いいたします。

